

● 参考図書の紹介 ●

「第17回全国お手玉遊び愛媛・新居浜大会」の講演会、シンポジウムに関連して、「ご出席の先生方の著書を紹介して欲しい」とのお問い合わせが、事務局に多く届いています。そこで、ここにその一部をご紹介します。



日本大学大学院教授・生理学者・医学博士 森 昭 雄 様

*「ゲーム脳の恐怖」(NHK出版)(660円+税)

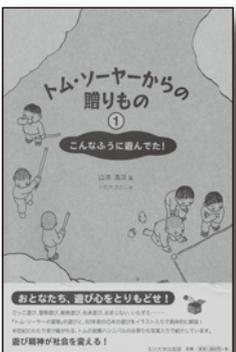
テレビゲームが、脳の前頭前野の機能の低下を引き起こすことを発見。それを「ゲーム脳」と命名して、社会に警鐘を鳴らした注目の一冊。

平成14年に刊行されたこの著書は、テレビゲームが脳に与える悪影響を説き、子を持つ親や教育者を中心に35万部を売り上げるベストセラーとなった。本書で提唱された「ゲーム脳」の効果的な改善方法として、お手玉遊びを提唱している。

「ITに殺される子どもたち」～蔓延するゲーム脳～(講談社)

『脳力』低下社会～ITとゲームは子どもに何をもたらすか～(PHP研究所)

「元気な脳のつくり方」～人間らしさを育て、すてきな大人になるために～(少年写真新聞社)ほか



鹿児島大学名誉教授・教育学博士 山 本 清 洋 様

*「トム・ソーヤからの贈りもの①」～こんなふうに遊んでた!～(玉川大学出版部)(1,800円+税)

著者自身の少年時代の遊びの経験が、現在の自分の生き方に「絶対的な影響を与えている」という思いから、「子どもの世界にキラキラと輝く遊び世界を復権したい」という願がつつられている。

ごっこ遊び、冒険遊び、動物遊び、伝承遊び、おまじない、いたずら…など、おとなたちに、あそびをとりもどせ!と、イラストと写真入りで呼びかける。

「トム・ソーヤからの贈りもの①」～こんなふうに遊んでた!～(玉川大学出版部)

「トム・ソーヤからの贈りもの②」～子どもが育つ野外遊び～(玉川大学出版部)

「子どもスポーツの意味解釈」(日本評論社)ほか



日本童謡協会副会長・詩人 宮 中 雲 子 様

*「どんな音がするでしょか」(教育出版センター)(1,200円+税)

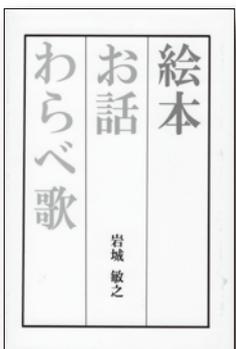
第8回サトウハチロー賞の受賞を記念して出版された詩集。この賞は、「故サトウハチロー氏を顕彰し、童謡復興への意志を継承し、もって子どもの歌の振興を図るために制定された童謡賞」。

タイトルは、詩集の中の、お手玉をつくる時の気持ちを詠んだもの。そのほか、「三つ玉お手玉」など37編の詩が収録されている。幼児から大人まで年齢のさかいを越えて親しむことができる。

「どんな音がするでしょか」(教育出版センター)

「手と手のうた」(銀の鈴社) 童謡集「お月さまがほしい」(木曜会出版部)

「はじめて童謡を書く」(主婦の友社)ほか



日本子どもの発達研究所講師 岩 城 敏 之 様

*「絵本 お話 わらべ歌」(アスラン書房)(1,500円+税)

宇治で生まれた著者は、その生い立ちから、祖母とのかかわり、家業が駄菓子屋から玩具店に変わった環境、鬼ごっこをして遊んだ小学生時代、大学生時代には子どもが相手のボランティアリーダーになり、絵本と出会う。

そうした過程を踏まえながら、絵本のほんとうの意味を感じ取ってもらえるようにと、話題が展開される。絵本に恋して、いちばん大切な昔話、魔法の言葉、子守唄・わらべ歌へと、引き込まれていく。

「絵本 お話 わらべ歌」(アスラン書房) 「かしいおもちゃの与え方」(三学出版)

「子どもの遊びをたかめる大人のかかわり」(三学出版)

「子育てのコツ」、「続・子育てのコツ」(三学出版)ほか